

予測不可能、 大荒れの超ハイスピード バトル!!



Rd.8 FUJI

2009D1シリーズもいよいよクライマックス。この日は、富士山がくっきり見えるほどの晴天に恵まれ、シリーズ最後を飾るに相応しい天候となった。この第8戦目は、『デュアルファイナルズ』の2日目&シリーズ最終戦となるだけに、岡山やエビスの2日目より、さらに激しいバトルが期待できる。そして手塚選手を含む3選手がひしめき合い、激しさを増すチャンピオンシリーズ争いも気になる。大勢の観客が見守る中、何が起こるか予測不可能!ファイナルラウンドの幕が切って落とされた。GOODYEAR Racingからは手塚選手、時田選手、高橋選手の3選手がそれぞれの思いを胸に、1回戦単走のスタートラインへ向かった…。

【最高の日 時田選手】

今シーズンに入ってから常に好調をキープし、確実に結果を出している時田選手。単走1回戦では、その集大成ともいえる見事な走り、審査員を唸らせ、1本目であっさりベスト16進出を決める。2本目では、思い切りのある走り(「アクセ



ルを思いっきり踏みちぎった」時田選手談)で観客を沸かせ、堂々の3位通過を果たした。続く追走戦でもその豪快な走りは衰える事なく、高山選手(ベスト16戦)を撃破、ベスト8熊久保戦へ。時田選手先行の1本目、300Rの飛び出し、続く切り返し、そして審査員席前のヘアピンと“ピッタピタ”につけてくる熊久保選手。D1ビギナードライバーならあっさり勝負アリかもしれないが、ここはグッドイヤーが誇る時田選手。ミスなく慎重、



そして豪快に走りきり、熊久保選手のアドバンテージを僅かに抑えた。2本目、熊久保選手のお株を奪うような“ピッタピタ”の走りをみせ、観客および審査員は興奮状態!サドンデスへ突入した。その後も両者ギリギリ限界の走りをみせ、最後は時田選手が競り勝ちベスト4進出を果たした。続く準決勝で敗れはしたが、結果3位という好成績を残した。今シーズンをシード選手として締めくくり、「最高の日」だったと語る時田選手の顔には、満面の笑みがあふれていた。

【新・高橋選手!】

Bグループ1回戦単走、「自分の持ち味をだし

て、悔いのない走りを…」と語っていた高橋選手の1本目、審査員が絶賛するほどの見事な走り。2本目、さらに角度をつけて300Rを飛び出し、



Bグループの中でもひとときわ迫力ある走りをみせ、1回戦を4位通過。続く追走戦では、ベスト4進出を目標に掲げるも、初戦で第7戦2位と好調の佐久間選手に破れ、結果10位で最終戦を締めくくった。「単走は良い感じになってきた。でも、追走戦でミスが多い。このあたりを修正しないとダメ。乗り手のポテンシャルを上げなきゃね…」と語る高橋選手の目線はすでに来年に向けられていた。次は是非ともシード入りを目指してがんばってもらいたい。

